

平安京右京六条四坊八町・西京極遺跡現地説明会資料

2006年 8月 26日

所在地：京都市右京区西院月双町 82
調査期間：2006年 7月 18日～ 9月 29日（予定）
調査面積：約 600m²
調査主体：財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

遺跡の概要

調査地は、平安京右京六条四坊八町と弥生時代から奈良時代の集落跡とされる西京極遺跡の北辺に位置しています。西京極遺跡は、旧天神川と西小路通付近に想定される旧河川に挟まれた微高地に形成された集落跡で、南北約 1 km、東西約 400mの範囲におよんでいます。これまでの調査で、弥生時代の竪穴住居や方形周溝墓、古墳時代の竪穴住居や溝、奈良時代の掘立柱建物がみつかっています。さらに縄文時代に遡る遺構・遺物も発見されており、長い期間にわたって人が生活した痕跡のうかがえる安定した土地であったと考えられます。

また、西京極遺跡の北東で今年 6 月に当研究所が実施した右京五条三坊十四町の調査でも弥生時代の方形周溝墓がみつき、さらに遺跡の範囲が広がる可能性があります。

今回の調査

今回の調査では、平安時代前期の遺構と古墳・奈良時代の遺構が同じ面で見つかりました。長らく水田であったため、良好な状態で遺構が残っていました。

平安時代前期の遺構には、南北 3 間×東西 2 間で東側に庇の付く掘立柱建物と南北方向の柵があります。

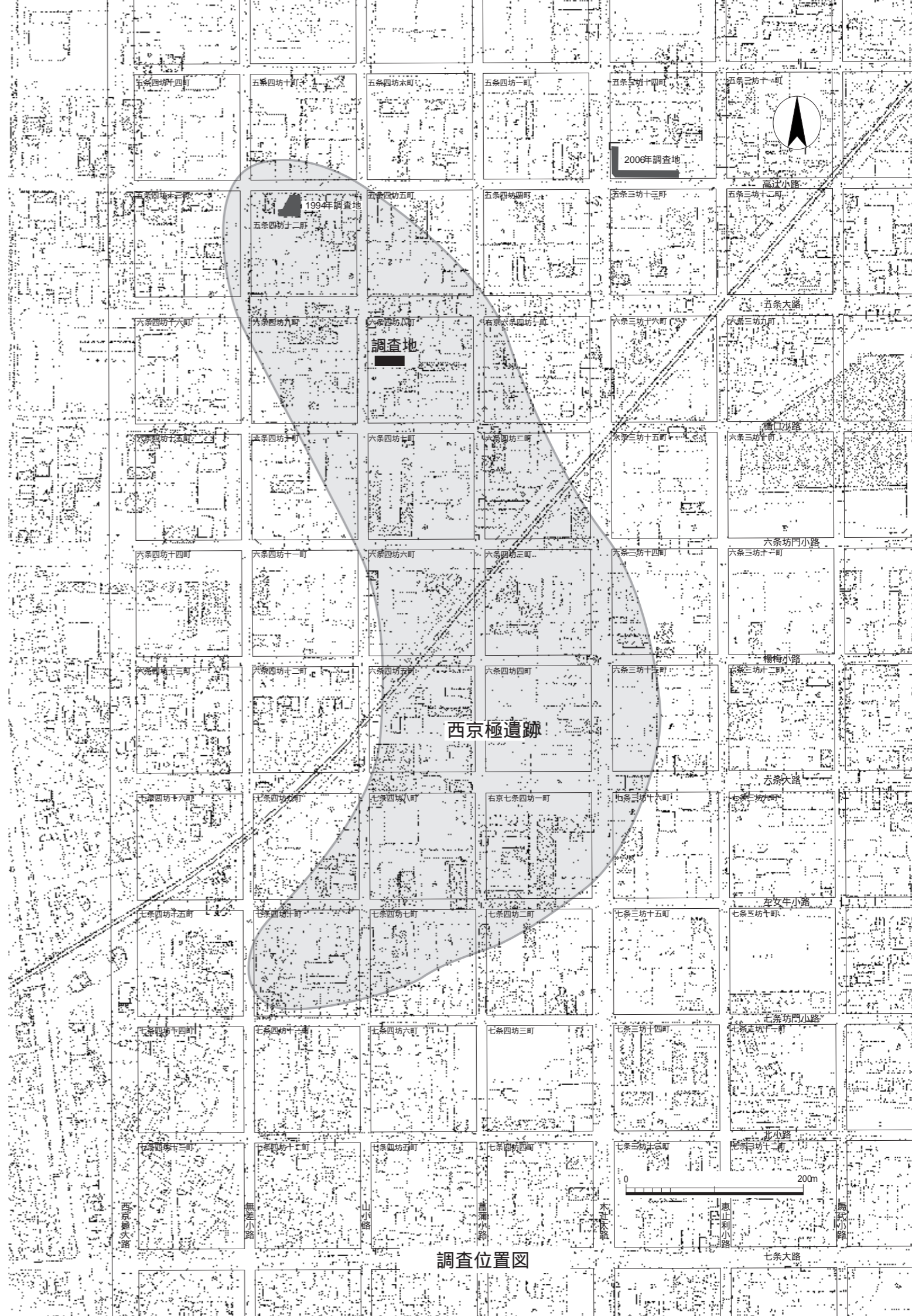
奈良時代の遺構としては、竪穴住居 3 棟とそれに先行する南北 3 間×東西 2 間の総柱建物がみつかりました。竪穴住居 83・145・148はほぼ正方位を向き、一辺 4 mの隅丸方形の平面形をしています。

古墳時代の遺構には、竪穴住居が 5 棟あります。中期から後期のもので方位にしがっていません。中でも竪穴住居 149は、一辺約 8 mの大型で北側にかまどがあります。その他、南側にかまどが付く竪穴住居 144もあります。かまどの向きの違いや、竪穴住居の重複関係から、数時期にわたる建て替えがあったと考えられます。

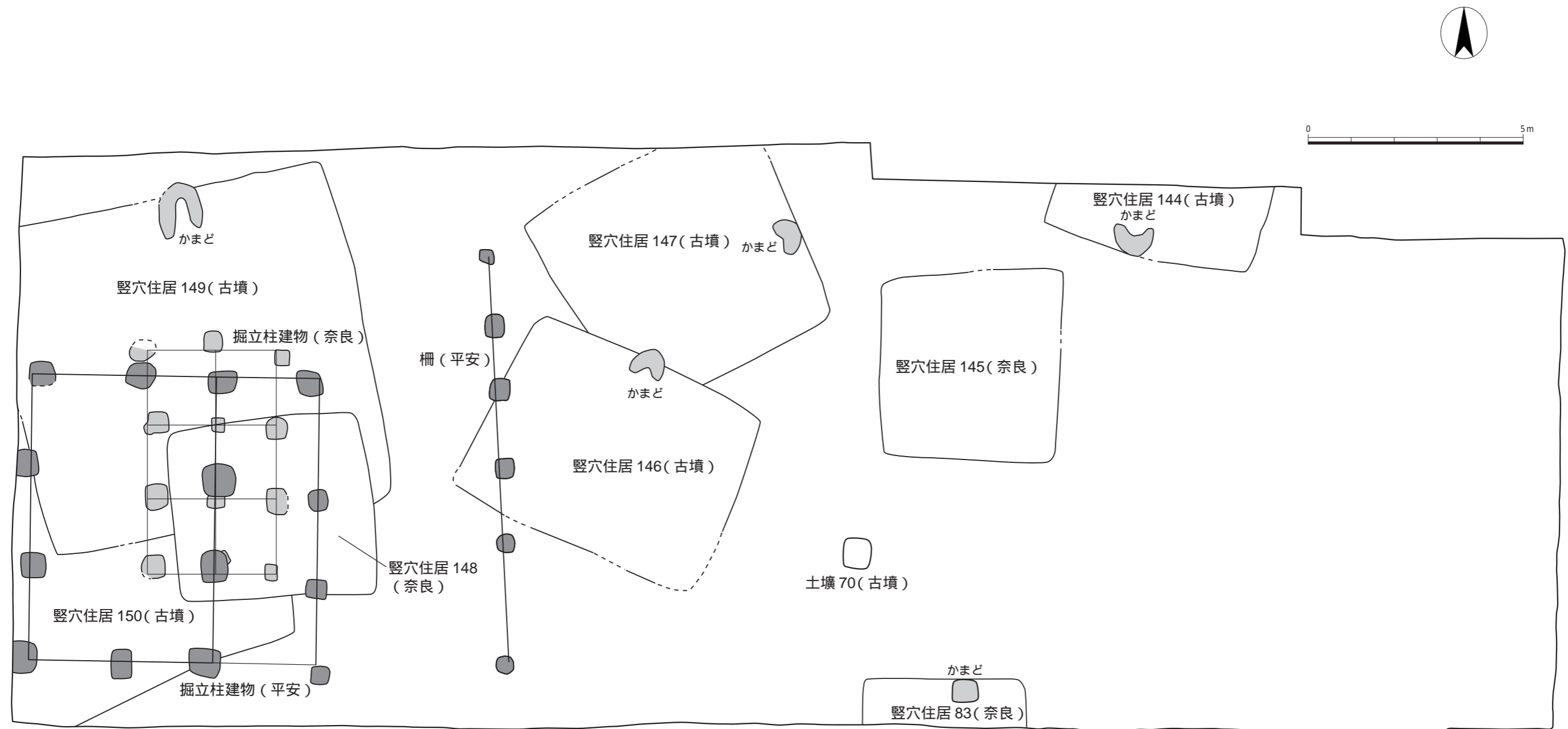
さらに下層からは、縄文時代や弥生時代の土器も出土しています。

まとめ

調査地近辺は、奈良時代には葛野郡葛野郷であったと推定されています。調査地の北西では同時期の大型掘立柱建物がみつかり、今回の成果と合せて、付近が葛野郷の中心であった可能性が高くなりました。また、古墳時代後期の竪穴住居がまとまってみつかったことは、西京極遺跡の変遷や存続時期を考える上で重要な発見といえます。



調査位置図



凡例 : 平安時代柱穴 : 奈良時代柱穴 (古墳) : 遺構の時代を示す

平安京右京六条四坊八町・西京極遺跡 調査平面図